

2013年3月26日
ワシントン研究連絡センター

米国学術研究の動向

NSF、女性・マイノリティ・障害者の科学工学分野への進出が未だ不十分と指摘（3月5日）

米国科学財団（National Science Foundation：NSF）は、女性、マイノリティ、障害者の科学工学分野における教育及び就職状況に関する報告書「2013年科学工学分野における女性・マイノリティ・障害者（Women, Minorities, and Persons with Disabilities in Science and Engineering：2013）」を発表した。

これによると、女性の場合、過去20年間で科学工学分野への進出は増加傾向にあり、特に心理学分野では学位取得者の70%以上が女性である一方、コンピューター・サイエンス分野では、学位を取得する女性の割合は18%から28%への増加に留まっており、女性の進出が最も低い分野であるという。

マイノリティに関しては、過去20年間で特に心理学、社会科学、コンピューター・サイエンス分野における学位取得者数が増加しつつあるが、2000年以降は、工学及び物理科学分野の学位取得者数は安定しており、数学分野では減少していることが明らかにされている。

さらに、①白人の科学者・エンジニアと比較すると、マイノリティの科学者・エンジニアの失業率が高い、②アジア人の科学者・エンジニアでは、女性の失業率が男性より高い、③被雇用者全体を見た場合、科学者・エンジニアでは、女性は男性と比較するとパートタイム勤務が多く、白人女性はほとんどがパートタイム勤務であるなど、格差があることが明らかにされている他、科学工学分野における障害者の雇用率は健常者よりも低いことなども示されている。

なお、本報告書は、<http://www.nsf.gov/statistics/wmpd/2013/pdf/nsf13304_full.pdf>からダウンロード可能。

National Science Foundation, Report Highlights Latest Data on Women, Minorities and Persons with Disabilities in Science and Engineering

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=127139

2011年度NSF助成受給研究の約1.5%に盗作の疑い(3月8日)

米国科学財団(National Science Foundation: NSF)の監察総監室(Office of Inspector General: OIG)管理調査部(Administrative Investigation Division)のジェームス・クロール部長(James Kroll)は、2011年度のNSF助成受給研究約8,000件を調査したところ、その1%から1.5%に盗作の疑いがあるという結果が出たことを明らかにした。

盗作は、捏造、改ざんと併せて、連邦研究機関が研究不正行為と見なすもので、NSF監察総監(Inspector General: IG)のアリソン・ラーナー氏(Allison Lerner)によると、NSFに助成申請した研究の中で不正行為の疑いのある件数は、過去10年間で3倍以上に増加しており、2003年以降に発覚した120件の研究不正行為のうち80%以上が盗作であると確認されたという。

2月28日に連邦下院科学宇宙技術委員会(House Committee on Science, Space, and Technology)が開催した公聴会に証人として出席したラーナー氏は、NSFが受理する年間約4万5,000件の助成申請研究のうち、1,300件の研究に盗作が関与し、450件から900件の研究に捏造・改ざんなどの問題のあるデータが含まれている可能性があると言明したが、同じく証人として出席したクロール氏は、その全てに対応することは現実的には困難であるとしている。

Science Insider, NSF Audit of Successful Proposals Finds Numerous Cases of Alleged Plagiarism

<http://news.sciencemag.org/scienceinsider/2013/03/nsf-audit-of-successful-proposal.html>